

S O A I U n i v e r s i t y

Syllabus

講義要綱

令和元年度(2019)

相愛大学

講義要綱の見方

巻頭の2019年度授業科目一覧で自分の回生の配当科目を確認し、
インデックス番号で履修する授業科目をさがして講義要綱をよく読むこと。

インデックス番号



例)

1-001

ナンバリング	CC100A01	期間	前期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	中平 了悟		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教経典『仏説無量寿経』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を十分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教 (1) 基礎</p> <p>第3回 人間と宗教 (2) 発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ (2) 発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ (2) 発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回 相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度 (参加状況) ・宗教行事への参加 55%</p> <p>試験・レポート・課題・提出物 45%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復習の準備 学習などのアド バイス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。 ・授業時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間 (90分) 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間 (90分) 		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

目 次

◎授業科目一覽

2019年度 授業科目一覽	p.3
---------------	-----

◎講義要綱

1. 基礎科目・共通科目	p.47
2. 音楽学部 共通専門科目	p.141
3. 音楽学部 専門科目	p.285
4. 人文学部	p.621
5. 人間発達学部	p.841
6. 教職課程科目	p.1067
7. 図書館司書課程科目	p.1111
8. 留学生科目	p.1137
9. 専攻科目	p.1157
10. 大学院	p.1179

Index	配当 年次	2016 2016(H28)年度入学生 Ⅳ回生用	2017 2017(H29)年度入学生 Ⅲ回生用	2018 2018(H30)年度入学生 Ⅱ回生用	2019 2019(H31)年度入学生 Ⅰ回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
7-023	Ⅳ 司	図書館情報資源特論				前期	岡田 大輔	E
7-024				司 学校教育概論	司 学校教育概論	前期	岡田 大輔	

8. 留学生科目

Index	配当 年次	2016 2016(H28)年度入学生 Ⅳ回生用	2017 2017(H29)年度入学生 Ⅲ回生用	2018 2018(H30)年度入学生 Ⅱ回生用	2019 2019(H31)年度入学生 Ⅰ回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
8-001	Ⅰ 共	日本語会話A	日本語会話A	日本語会話A	日本語会話A	前期	高谷 由貴・谷川 和子	
8-002	Ⅰ 共	日本語会話A	日本語会話A	日本語会話A	日本語会話A	前期	高谷 由貴・谷川 和子	
8-003	Ⅰ 共	日本語会話A	日本語会話A	日本語会話A	日本語会話A	前期	菅 翔子・嶋本 圭子	
8-004				日本語会話A	日本語会話A	前期	速水 はるみ・福田 一也	
8-005	Ⅰ 共	日本語会話B	日本語会話B	日本語会話B	日本語会話B	後期	高谷 由貴・谷川 和子	
8-006	Ⅰ 共	日本語会話B	日本語会話B	日本語会話B	日本語会話B	後期	高谷 由貴・谷川 和子	
8-007	Ⅰ 共	日本語会話B	日本語会話B	日本語会話B	日本語会話B	後期	菅 翔子・嶋本 圭子	
8-008				日本語会話B	日本語会話B	後期	速水 はるみ・福田 一也	
8-009	Ⅰ 共	日本語A	日本語A	日本語A	日本語A	前期	菅 翔子・嶋本 圭子	
8-010	Ⅰ 共	日本語A	日本語A	日本語A	日本語A	前期	菅 翔子・嶋本 圭子	
8-011				日本語A	日本語A	前期	高谷 由貴・谷川 和子	
8-012				日本語A	日本語A	前期	速水 はるみ・福田 一也	
8-013	Ⅰ 共	日本語B	日本語B	日本語B	日本語B	後期	菅 翔子・嶋本 圭子	
8-014	Ⅰ 共	日本語B	日本語B	日本語B	日本語B	後期	菅 翔子・嶋本 圭子	
8-015	Ⅰ 共	日本語B	日本語B	日本語B	日本語B	後期	高谷 由貴・谷川 和子	
8-016				日本語B	日本語B	後期	速水 はるみ・福田 一也	
8-017				日本語C		前期	福田 一也	
8-018				日本語D		後期	福田 一也	

9. 専攻科目

Index	配当 年次	2016 2016(H28)年度入学生 Ⅳ回生用	2017 2017(H29)年度入学生 Ⅲ回生用	2018 2018(H30)年度入学生 Ⅱ回生用	2019 2019(H31)年度入学生 Ⅰ回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
9-001					専攻実技A(声楽)	通年	<声楽部門>	
9-002					専攻実技B(声楽)	通年	<声楽部門>	
9-003					専攻実技A(管弦打楽器)	通年	<管弦打部門>	



8. 留学生科目



ナンバリング	CC300A11	期間	前期
授業科目名	日本語会話A		
英訳科目名	Japanese Conversation A		
担当教員名	高谷 由貴、谷川 和子		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3	◎	ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>毎回1人から2人（クラスの人数による）に2～3分くらいのスピーチをしてもらいます。スピーチ原稿作成は宿題、提出。今後必ず人の前で話す、発表することが必要になります。また毎回、様々な分野の短文音読もします。（N1～2レベル）日本の文化や日本の生活を紹介しながら、外の世界とつながった自然な日本語を身につけることを目標にします。【谷川】</p> <p>社会で生活していくために、人々が行うコミュニケーションは、「日常会話」と呼ばれますが、実は「日常会話」の大半は、様々な話題に関する「雑談」です。この授業では毎回、あるテーマに関連した発表をしてもらいます。そして、その発表について、グループで話し合いをします。各自が積極的に話すことを期待します。グループで話した内容は、毎回、授業の最後で代表者がまとめて話します。また、毎回のテーマと関連したディクテーションも行います。ディクテーションで学んだ語句・表現の復習を宿題として課すこともあります。【高谷】</p>		
到達目標	<p>【谷川担当分】</p> <p>①相手を思いやり、共感しつつ失礼にならないように自分の意見も言うことができる。 ②たくさん人の前で話すことができる。 ③副詞や接続表現を使って、自然な会話をすることができる。</p> <p>【高谷担当分】</p> <p>①実際の自然な会話で使用できる語句・表現を増やす。 ②豊富な話題で日常会話ができる。 ③パワーポイントを使って発表することができる。</p>		
授業計画	<p>【谷川担当分】</p> <p>第1回 オリエンテーション／自己紹介・アンケート 第2回 スピーチ作成① 敬語復習 依頼・頼みにくいことをお願いする。①生活の中での依頼 第3回 依頼・頼みにくいことをお願いする。②上下関係のある依頼 第4回 事情を説明する／感謝、謝罪 第5回 自分の意見を言う（アサーティブな表現） 第6回 丁寧に断る 第7回 なくしたものを説明する（物の説明） 第8回 スピーチ作成② 状況を話す① 電話で状況を説明 第9回 状況を話す② 困っていることを説明 第10回 絵・図・グラフを見て（聞いて）説明する 第11回 新聞を読んで意見を言う（賛成、反対） 第12回 授業を聞いてまとめて発表（上級・中上級レベル）社会学 第13回 授業を聞いてまとめて発表（上級・中上級レベル）心理学 第14回 最近あった出来事や体験を話す 第15回 発表・到達度の確認 ※授業内容は履修生の人数、レベルなどによって、変更することがあります。</p> <p>【高谷担当分】</p> <p>第1回 オリエンテーション／自己紹介／発表スケジュール決定 第2回 自分に関する話題 第3回 日常生活に関する話題 第4回 大衆文化に関する話題（1） 第5回 復習日① 第6回 大衆文化に関する話題（2） 第7回 予定・将来に関する話題 第8回 好きな物に関する話題 第9回 復習日② 第10回 世の中のことに関する話題（1） 第11回 世の中のことに関する話題（2） 第12回 地域（ローカル情報）について（1） 第13回 復習日③ 第14回 地域（ローカル情報）について（2） 第15回 到達度の確認 ※授業内容は履修生の人数、レベルなどによって、変更することがあります。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>【谷川担当分】</p> <p>授業への参加態度 40% スピーチなどの準備、発表 30% 試験 30%</p> <p>【高谷担当分】</p> <p>授業への参加態度 30% スピーチなどの準備、発表 30% レポート提出 20% 小テストなど 20%</p>		
失格条件	<p>①出席が全授業数の3分の2に満たない場合 ②学期末試験を受けなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>【谷川担当分】</p> <p>・スピーチの準備を必ずしてください。（1時間） ・学校外でも習った会話を試してみてください。（2時間）</p> <p>【高谷担当分】</p> <p>・PPTの作成、発表の準備を必ずしてください。（2時間） ・学校外でも習った会話を試してみてください。（1時間）</p>		
課題へのフィード バック	<p>【谷川担当分】</p> <p>・スピーチ準備は、全体に解説、原稿提出後、発表後、個別にコメントします。 ・期末試験終了後、個別にコメント</p> <p>【高谷担当分】</p> <p>・毎回の発表終了後、クラス全体に対して解説を行う。また、発表後、PPTデータを提出してもらい、個別にコメントします。 ・期末試験終了後、個別にコメント</p>		
教科書	不使用 プリントを配ります。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	<p>【谷川担当分】</p> <p>ほかの人のスピーチや会話、発言を聞くことはとても勉強になります。スピーチが当たっている人は、準備をしない、無断で欠席することのないよう、責任をもってしてください。</p> <p>【高谷担当分】</p> <p>・ほかの人が発表しているときは、集中して聞きましょう。 ・発表担当の人は、必ず準備を行い、決められた日に発表してください。やむを得ない場合をのぞき、初回に決めたスケジュールは変更できません。初回の授業には必ず出席しましょう。</p>		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CC300A11	期間	前期
授業科目名	日本語会話A		
英訳科目名	Japanese Conversation A		
担当教員名	谷川 和子、高谷 由貴		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3	◎	ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>【谷川担当分】 毎回1人から2人（クラスの人数による）に2～3分くらいのスピーチをしてもらいます。スピーチ原稿作成は宿題、提出。今後必ず人の前で話す、発表することが必要になります。また毎回、様々な分野の短文音読もします。（N3レベル）日本の文化や日本の生活を紹介しながら、外の世界とつながった自然な日本語を身につけることを目標にします。</p> <p>【高谷担当分】 社会で生活していくために、人々が行うコミュニケーションは、「日常会話」と呼ばれますが、実は「日常会話」の大半は、様々な話題に関する「雑談」です。この授業では毎回、あるテーマに関連した発表をしてもらいます。そして、その発表について、グループで話し合いをします。各自が積極的に話すことを期待します。グループで話した内容は、毎回、授業の最後で代表者がまとめて話します。</p> <p>また、毎回のテーマと関連したディクテーションも行います。ディクテーションで学んだ語句・表現の復習を宿題として課すこともあります。</p>		
到達目標	<p>【谷川担当分】 ①相手を思いやり、共感しつつ失礼にならないように自分の意見も言うことができる。 ②たくさん人の前で話すことができる。 ③副詞や接続表現を使って、自然な会話をするができる。</p> <p>【高谷担当分】 ①実際の自然な会話で使用される語句・表現を身につけられる。 ②豊富な話題で日常会話ができる。 ③パワーポイントを使って発表することができる。</p>		
授業計画	<p>授業計画 【谷川担当分】 第1回 オリエンテーション／自己紹介・アンケート 第2回 スピーチ作成①／敬語復習・依頼・頼みにくいことをお願いする① 生活の中での依頼 第3回 依頼・頼みにくいことをお願いする② 上下関係のある依頼 第4回 事情を説明する／感謝、謝罪 第5回 自分の意見を言う（アサーティブな表現） 第6回 丁寧に断る 第7回 なくしたものを説明する（物の説明） 第8回 スピーチ作成②／状況を話す① 電話で状況を説明 第9回 状況を話す② 困っていることを説明 第10回 絵・図・グラフを見て（聞いて）説明する 第11回 新聞を読んで意見を言う（賛成、反対） 第12回 授業を聞いてまとめて発表（上級・中上級レベル） 社会学 第13回 授業を聞いてまとめて発表（上級・中上級レベル） 心理学 第14回 最近あった出来事や体験を話す 第15回 発表・到達度の確認 ※授業内容は履修生の人数、レベルなどによって、変更することがあります。</p> <p>【高谷担当分】 第1回 オリエンテーション／自己紹介／発表スケジュール決定 第2回 自分に関する話題 第3回 日常生活に関する話題 第4回 大衆文化に関する話題（1） 第5回 復習日① 第6回 大衆文化に関する話題（2） 第7回 予定・将来に関する話題 第8回 好きな物に関する話題 第9回 復習日② 第10回 世の中のことに関する話題（1） 第11回 世の中のことに関する話題（2） 第12回 地域（ローカル情報）について（1） 第13回 復習日③ 第14回 地域（ローカル情報）について（2） 第15回 到達度の確認 ※授業内容は履修生の人数、レベルなどによって、変更することがあります。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 40% スピーチなどの準備、発表 30% 試験 30%</p> <p>【谷川担当分】 授業への参加態度 30% スピーチなどの準備、発表 30% レポート提出 20% 小テストなど 20%</p> <p>【高谷担当分】</p>		
失格条件	<p>①出席が全授業数の3分の2に満たない場合 ②学期末試験を受けなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・スピーチの準備を必ずしてください。（1時間） ・学校外でも習った会話を使ってみてください。（2時間） 【谷川】</p> <p>・PPTの作成、発表の準備を必ずしてください。（2時間） ・学校外でも習った会話を使ってみてください。（1時間） 【高谷】</p>		
課題へのフィードバック	<p>・スピーチ準備は、全体に解説、原稿提出後、発表後、個別にコメントします。 ・期末試験終了後、個別にコメント 【谷川】</p> <p>・毎回の発表終了後、クラス全体に対して解説を行う。また、発表後、PPTデータを提出してもらい、個別にコメントします。 ・復習日に提出してもらったプリントに個別にフィードバックします。 【高谷】</p>		
教科書	不使用 プリントを配ります。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	<p>ほかの人のスピーチや会話、発言を聞くことはとても勉強になります。スピーチが当たっている人は、準備をしないで、無断で欠席するということのないよう、責任をもってしてください。 【谷川】</p> <p>・ほかの人が発表しているときは、集中して聞きましょう。 ・発表担当の人は、必ず準備を行い、決められた日に発表してください。やむを得ない場合をのぞき、初めに決めたスケジュールは変更できません。初回の授業には必ず出席しましょう。 【高谷】</p>		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CC300A11	期間	前期
授業科目名	日本語会話A		
英訳科目名	Japanese Conversation A		
担当教員名	菅 摂子、嶋本 圭子		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3	◎	ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	日本語で聞いたり話したりする技能の向上を目指します。聴解では大学の講義や研究発表を聞けるようになることを目的とします。また聴解で学んだ表現や語彙を使って、口頭発表をします。【嶋本】 日常生活でよくある状況で、目上の人や友達とどのように話すかを学びます。特に、日本人と雑談をする時にどのように話せばいいか、表現の勉強や会話の練習をし、実際の生活で使えるようになることを目標とします。【菅】		
到達目標	<p>【嶋本担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴解を通して語彙や表現を増やし、それを使うことができる。 ・聞いたことの要点を把握し、まとめることができる。 ・口頭発表でよく使われる表現を理解し、使うことができる。 ・関心のあるテーマについて口頭発表ができる。 ・口頭発表を聞いて、適切な指摘や質問ができる。 <p>【菅担当分】</p> <p>①友達や目上の人と雑談する時に、自分の伝えたいことを日本人が話すような話の流れ（構成・順序）で上手に伝えてコミュニケーションできるようになる。</p> <p>②目上の人に言い難いことを失礼にならないように言うことができる。</p>		
授業計画	<p>【嶋本担当分】</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 聴解『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解上級』①</p> <p>第3回 聴解『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解上級』②</p> <p>第4回 聴解『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解上級』③</p> <p>第5回 聴解『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解上級』④</p> <p>第6回 聴解『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解上級』⑤</p> <p>第7回 聴解『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解上級』⑥</p> <p>第8回 聴解『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解上級』⑦</p> <p>第9回 聴解『聴解・発表ワークブック』、発表準備①（表現の確認、練習）</p> <p>第10回 聴解『聴解・発表ワークブック』、発表準備②（レジュメのチェック、発表の練習）</p> <p>第11回 口頭発表①</p> <p>第12回 口頭発表②</p> <p>第13回 口頭発表③</p> <p>第14回 発表予備日、発表フィードバック、聴解テスト</p> <p>第15回 後期のまとめ</p> <p>【菅担当分】</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 カジュアルに話す① ロールプレイを考える、会話練習</p> <p>第3回 カジュアルに話す② 表現練習、まとめのロールプレイを作って発表する</p> <p>第4回 慣用句を使いこなす① ロールプレイを考える、モデル会話練習</p> <p>第5回 慣用句を使いこなす② 表現練習、まとめのロールプレイを作って発表する</p> <p>第6回 体験をおもしろく話すには① ロールプレイを考える、モデル会話練習</p> <p>第7回 体験をおもしろく話すには② 表現練習、まとめのロールプレイを作って発表する</p> <p>第8回 新しいものを紹介したいときは① ロールプレイを考える、会話練習</p> <p>第9回 相手に安心して話してもらうには② 表現練習、まとめのロールプレイを作って発表する</p> <p>第10回 相手に安心して話してもらうには① ロールプレイを考える、会話練習</p> <p>第11回 相手に安心して話してもらうには② 表現練習、まとめのロールプレイを作って発表する</p> <p>第12回 目上の人に注意を促す① ロールプレイを考える、会話練習</p> <p>第13回 目上の人に注意を促す② 表現練習、まとめのロールプレイを作って発表する</p> <p>第14回 困った状況を伝える① ロールプレイを考える、モデル会話練習</p> <p>第15回 困った状況を伝える② 表現練習、まとめのロールプレイを作って発表する</p> <p>* 授業内容は受講生の能力や希望によって変更することがあります。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>【嶋本担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加態度 30% ・提出物 20% ・口頭発表 20% ・期末試験 30% <p>【菅担当分】</p> <p>授業参加態度 30%</p> <p>* 授業中に携帯電話で遊ぶ等、関係のないことをしている人や、口を動かさずにただ座っている人は出席と認めません。</p> <p>発表・課題提出 30%</p> <p>学期末試験 40%</p>		
失格条件	<p>①出席が全授業数の3分の2に満たない場合</p> <p>②学期末試験を受けなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>【嶋本担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほかの講義や授業を受ける際も、聞きながらメモをとる練習をしましょう。 ・習った語彙や表現の復習は必ずしましょう。またそれを積極的に使って話しましょう。（2時間） ・要約の宿題があります。必ず提出しましょう。（1時間） <p>【菅担当分】</p> <p>授業の復習を必ずやってください。（1時間）</p> <p>会話作文の宿題を必ず提出してください（1時間）</p> <p>また、授業に来るだけでは日本語は上手になりません。</p> <p>教室の外で積極的に日本語を話すようにしてください。（2時間）</p>		
課題へのフィードバック	<p>【嶋本担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題の要約は次の授業に日本語チェックをして返却します。 ・口頭発表の際には発表後、質問やコメントをします。 <p>【菅担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題提出後、コメントをつけて個別に返却します。 ・課題返却時、全体に向けてコメントします。 		
教科書	<p>【嶋本担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリントを配布します。 <p>【菅担当分】</p> <p>プリントを配ります。</p>		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	第1回目の授業に必ず出席すること。 配布プリントは自分で管理すること。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CC300A11	期間	前期
授業科目名	日本語会話A		
英訳科目名	Japanese Conversation A		
担当教員名	福田 一也、速水 はるみ		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3	◎	ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	会話には、人と交流する、人に説明する、人を誘う・断る、人に許可を求めるなど、さまざまな場面があります。そして、その場面や人と人との関係によっても使う言葉が異なってきます。この授業では、聴くこと（聴解）や話すこと（会話）を中心に、さまざまな場面に応じた日本語を学びます。さらに、グループディスカッション、スピーチ、プレゼンテーションなどを通じて、大学で授業を受けたり、演習を行ったりする際に不可欠な基礎力を養います。なお、これに加え、毎回、宿題（語彙・漢字・文法）の提出を求めます。		
到達目標	会話は場面に応じた言葉（友達同士の言葉、先生との会話、公的な場面での会話）などの使い分けができるようになる。身近な話題から社会問題まで、さまざまなテーマに関心を持ち、話し手の考えを十分に理解した上で自分の意見が言えるようになる。また、自らテーマを設定して考え、資料などの根拠を示しながら論理的な意見が言えるようにする。聴解は少し長い内容を聞いて、ポイントをメモしたり要約することができるようにする。また、わからない言葉があっても推測して全体の内容を把握できるようにする。		
授業計画	<p>（福田担当分）</p> <p>第1回 オリエンテーション&自己紹介 第2回 中上級の会話①ロールプレイ「誘いを断る」 第3回 中上級の会話②ロールプレイ「部屋をさがす」 第4回 中上級の会話③ロールプレイ「アルバイトに応募する」 第5回 グループディスカッション「告白は直接派？間接派？」 第6回 中上級の会話④スピーチ①「無くした体験を話そう」 第7回 中上級の会話⑤スピーチ②「動きの順序を説明しよう」 第8回 復習Ⅰ・確認テスト 第9回 プレゼンテーション「私の国で問題となっていること①」 第10回 プレゼンテーション「私の国で問題となっていること②」 第11回 中上級の会話⑥ロールプレイ「日にちの変更許可を求める」 第12回 中上級の会話⑦ロールプレイ「進路相談と面接」 第13回 会話の作成 「四コマ漫画のセリフを考える」 第14回 復習Ⅱ & 活動「日本人に言葉を教える」 第15回 総まとめ ※人数・レベル・ニーズにより、シラバスは変更することがあります。また、期末試験のほかに小テストの実施を予定しています。</p> <p>（速水担当分）</p> <p>第1回 中上級の聴解① 世界の人口 第2回 中上級の聴解② 日本の地方都市 第3回 中上級の聴解③ コンビニ図書館 第4回 中上級の聴解④ 右回りの時計 第5回 中上級の聴解⑤ 目にやさしい色 第6回 中上級の聴解⑥ アニメ文化の輸出 第7回 中上級の聴解⑦ 通話をやめた若者 第8回 生教材 映像から学ぶ日本① 第9回 中上級の聴解⑧ 川を渡る 第10回 中上級の聴解⑨ 合格は誰のおかげ？ 第11回 中上級の聴解⑩ 小判がこわい 第12回 生教材 映像から学ぶ日本② 第13回 中上級の聴解⑪ 新幹線の顔 第14回 中上級の聴解⑫ 留学生文学賞 第15回 まとめ ※人数・レベル・ニーズにより、シラバスは変更することがあります。</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（30%）、宿題・小テスト（20%）、試験（50%）		
失格条件	出席が全授業数の3分の2に満たない場合 学期末試験を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>（予習：1時間）</p> <p>①漢字・語彙・文法の宿題をしてくること。 ②ニュースや映画、ドラマなど日本語を意識して聞き、わからない言葉があれば調べてノートに書くこと。</p> <p>（復習：3時間）</p> <p>①漢字・語彙・文法の小テストの勉強をすること。 ②授業で使ったスクリプトなどを見て、聴解の内容をフィードバックしておくこと。 ③ロールプレイでできなかったところなどを改めて見返し、練習しておくこと。</p>		
課題へのフィードバック	宿題や小テストは、当日、または次の授業内で解説やコメントを行います。		
教科書	不使用。毎回プリントを配布します。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	①時間を守り、学校ではできるだけ日本語で話すこと。 ②配布された資料を持っていくこと。 ③授業中、携帯電話（スマートフォン）やタブレットなど通信機能付きの機器の利用は禁止する。携帯電話などの電源は必ず切ること（ただし、通信機能のない電子辞書などは使用可）。 ④小テストや期末テストでは、必ず鉛筆かシャープペンシルで記入すること。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CC300B09	期間	後期
授業科目名	日本語会話 B		
英訳科目名	Japanese Conversation B		
担当教員名	高谷 由貴、谷川 和子		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3	◎	ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>【谷川担当分】 Aに引き続き、毎回1人から2人（クラスの人数による）に2～3分くらいのスピーチをしてもらいます。スピーチ原稿作成は宿題。提出。また毎回、様々な分野の短文音読もします。（N1～2レベル） Bでは、より複雑な会話、説明のしかたを学びます。そして、自分のことが説明できるようになることを目標とします。</p> <p>【高谷担当分】 Aに引き続き、毎回PPTでプレゼンテーションをもらい、それに対してグループで話し合いをします。Bではより詳細で複雑な話題に関しても話せるようになることを目指します。ディクテーションも行います。</p>		
到達目標	<p>【谷川担当分】 ①より複雑なことが説明できる ②ほかの人の話を聞いて、知識を深め、共感しつつ、失礼にならないように、自分の意見が言える。 ③自分のことを説明することができる。</p> <p>【高谷担当分】 ①実際の自然な会話で使用される語句・表現を身につけられる。 ②社会問題を含む様々な話題について、人の意見を聞きながら会話ができる。 ③パワーポイントを使って発表することができる。</p>		
授業計画	<p>【谷川担当分】 第1回 オリエンテーション／スピーチ作成① 第2回 依頼、謝罪共感する・なくさめる 敬語復習 第3回 質問する／大学で、買い物で、申し込む場面で 第4回 絵・図・グラフを見て説明する 第5回 説明する① 質問に答える 第6回 説明する② 自分の性格 第7回 スピーチ作成②／説明する③ 自分の国の問題点 第8回 説明する④ 健康状態 第9回 授業を聞いてまとめて発表（上級レベル）社会問題 第10回 授業を聞いてまとめて発表（上級レベル）心理学 第11回 新聞を読んでディスカッション（賛成、反対） 第12回 新聞を読んでディスカッション（社会問題） 第13回 自分の将来を述べる 第14回 自己紹介 面接の日本語 第15回 発表、到達度の確認 ※授業内容は履修生の人数、レベルなどによって、変更することがあります。</p> <p>【高谷担当分】 第1回 オリエンテーション／自己紹介／発表スケジュール決定 第2回 国・文化（1）自国の製品や物について 第3回 国・文化（2）ファッションについて 第4回 国・文化（3）就職活動について 第5回 復習日① 第6回 ニュースについて（1） 第7回 ニュースについて（2） 第8回 天気・気候についての話題 第9回 復習日② 第10回 経済・金融について（1） 第11回 経済・金融について（2） 第12回 自由テーマ発表① 第13回 自由テーマ発表② 第14回 自由テーマ発表③ 第15回 到達度の確認 ※授業内容は履修生の人数、レベルなどによって、変更することがあります。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>【谷川担当分】 授業への参加態度 40% スピーチなどの準備、発表 30% 試験 30%</p> <p>【高谷担当分】 授業への参加態度 30% スピーチなどの準備、発表 30% レポート提出 20% 小テストなど 20%</p>		
失格条件	<p>①出席が全授業の3分の2に満たない場合 ②学期末試験を受けなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>【谷川担当分】 ・スピーチの準備を必ずしてください。（1時間） ・学校外でも習った会話を使ってみてください。（2時間）</p> <p>【高谷担当分】 ・PPTの作成、発表の準備を必ずしてください。（2時間） ・学校外でも習った会話を使ってみてください。（1時間）</p>		
課題へのフィード バック	<p>【谷川担当分】 ・スピーチ準備は、全体に解説、原稿提出後、発表後、個別にコメントします。 ・期末試験終了後、個別にコメント</p> <p>【高谷担当分】 ・毎回の発表終了後、クラス全体に対して解説を行う。また、発表後、PPTデータを提出してもらい、個別にコメントします。 ・復習日に提出してもらおうプリントに、個別にフィードバックします。</p>		
教科書	不使用 プリントを配ります。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	<p>【谷川担当分】 ほかの人のスピーチや会話、発言を聞くのはとても勉強になります。 スピーチが当たっている人は、準備をしない、無断で欠席するというのしないよう、責任をもってしてください。</p> <p>【高谷担当分】 ・ほかの人が発表しているときは、集中して聞きましょう。 ・発表担当の人は、必ず準備を行い、決められた日に発表してください。やむを得ない場合をのぞき、初回に決めたスケジュールは変更できません。初回の授業には必ず出席しましょう。</p>		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CC300B09	期間	後期
授業科目名	日本語会話 B		
英訳科目名	Japanese Conversation B		
担当教員名	高谷 由貴、谷川 和子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>【谷川担当分】 Aに引き続いて、毎回1人から2人（クラスの人数による）に2～3分くらいのスピーチをしてもらいます。スピーチ原稿作成は宿題、提出。また毎回、様々な分野の短文音読もします。（N2レベル） Bでは、より複雑な会話、説明のしかたを学びます。そして、自分のことが説明できるようになることを目標とします。</p> <p>【高谷担当分】 Aに引き続き、毎回PPTでプレゼンテーションをしてもらい、それに対してグループで話し合いをします。Bではより詳細で複雑な話題に関しても話せるようになることを目指します。ディクテーションも行います。</p>		
到達目標	<p>【谷川担当分】 ①より複雑なことが説明できる ②ほかの人の話を聞いて、知識を深め、共感しつつ、失礼にならないように、自分の意見が言える。 ③自分のことを説明することができる。</p> <p>【高谷担当分】 ①実際の自然な会話で使用できる語句・表現を増やす。 ②社会問題を含む様々な話題について、人の意見を聞きながら会話ができる。 ③パワーポイントを使って発表することができる。</p>		
授業計画	<p>【谷川担当分】 第1回 オリエンテーション／スピーチ作成① 第2回 依頼、謝罪共感する・なぐさめる／敬語復習 第3回 質問する／大学で、買い物で、申し込む場面で 第4回 絵・図・グラフを見て説明する 第5回 説明する① 質問に答える 第6回 説明する② 自分の性格 第7回 スピーチ作成②／説明する③ 自分の国 第8回 説明する④ 健康状態 第9回 授業を聞いてまとめて発表（上級・中上級レベル）社会問題 第10回 授業を聞いてまとめて発表（上級・中上級レベル）心理学 第11回 新聞を読んでディスカッション（賛成、反対） 第12回 新聞を読んでディスカッション（社会問題） 第13回 自分の将来を述べる 第14回 自己紹介 面接の日本語 第15回 発表、到達度の確認 ※授業内容は履修生の人数、レベルなどによって、変更することがあります。</p> <p>【高谷担当分】 第1回 オリエンテーション／自己紹介／発表スケジュール決定 第2回 国・文化（1）自国の製品や物について 第3回 国・文化（2）ファッションについて 第4回 国・文化（3）就職活動について 第5回 復習日① 第6回 ニュースについて（1） 第7回 ニュースについて（2） 第8回 天気 気候についての話題 第9回 復習日② 第10回 経済・金融について（1） 第11回 経済・金融について（2） 第12回 自由テーマ発表① 第13回 自由テーマ発表② 第14回 自由テーマ発表③ 第15回 到達度の確認 ※授業内容は履修生の人数、レベルなどによって、変更することがあります。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>【谷川担当分】 授業への参加態度 40% スピーチなどの準備、発表 30% 試験 30%</p> <p>【高谷担当分】 授業への参加態度 30% スピーチなどの準備、発表 30% レポート提出 20% 小テストなど 20%</p>		
失格条件	<p>①出席が全授業数の3分の2に満たない場合 ②学期末試験を受けなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>【谷川担当分】 ・スピーチの準備を必ずしてください。（1時間） ・学校外でも習った会話を使ってみてください。（2時間）</p> <p>【高谷担当分】 ・PPTの作成、発表の準備を必ずしてください。（2時間） ・学校外でも習った会話を使ってみてください。（1時間）</p>		
課題へのフィード バック	<p>【谷川担当分】 ・スピーチ準備は、全体に解説、原稿提出後、発表後、個別にコメントします。 ・期末試験終了後、個別にコメント</p> <p>【高谷担当分】 ・毎回の発表終了後、クラス全体に対して解説を行う。また、発表後、PPTデータを提出してもらい、個別にコメントします。 ・復習日に提出してもらい、プリントに個別にフィードバックします。</p>		
教科書	不使用 プリントを配ります。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	<p>【谷川担当分】 ほかの人のスピーチや会話、発言を聞くのはとても勉強になります。 スピーチが当たっている人は、準備をしない、無断で欠席するということのないよう、責任をもってしてください。</p> <p>【高谷担当分】 ・ほかの人が発表しているときは、集中して聞きましょう。 ・発表担当の人は、必ず準備を行い、決められた日に発表してください。やむを得ない場合をのぞき、初回に決めたスケジュールは変更できません。初回の授業には必ず出席しましょう。</p>		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CC300B09	期間	後期
授業科目名	日本語会話 B		
英訳科目名	Japanese Conversation B		
担当教員名	菅 摂子、嶋本 圭子		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3	◎	ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>日本語で聞いたり話したりする技能の向上を目指します。聴解ではニュースを聞きいて大意を把握し、日本社会で常時使われている語彙や表現、文法を身につけます。また、大学の授業で発言したり、話し合いに参加したりできるよう、スピーチやディスカッションを通して自分の主張や意見を述べる練習をします。【嶋本】</p> <p>日本に来て間もないみなさんは、まだ日本語で言いたいことが言えなかったり、どのように話したらいいか、わからないことが多いと思います。会話の授業では、誘いを断ったり、店長に許可を求めたり、みんなが日本で生活する中で、目上の相手に失礼にならないように話す練習をします。また、同じ年代の友達と自然に話せるように普通体を使った話し方の練習をします。【菅】</p>		
到達目標	<p>【嶋本担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュースを聞いて、必要な情報を聞き取り、大意把握ができる。 ・ニュースでよく使われる文法や語彙、表現を理解し、運用できる。 ・スピーチやディスカッションでよく使われる表現を学び、運用できる。 ・ディスカッションやスピーチで自分の考えや意見を述べることができる。 <p>【菅担当分】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①目上の相手に失礼にならないように話せるようになる。 ②同じ年くらいの相手に自然な友達言葉を使って話せるようになる。 		
授業計画	<p>【嶋本担当分】</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 『ニュースの日本語聴解50』スピーチの表現を学ぶ</p> <p>第3回 『ニュースの日本語聴解50』敬語で話そう①</p> <p>第4回 『ニュースの日本語聴解50』敬語で話そう②</p> <p>第5回 『ニュースの日本語聴解50』スピーチ発表①</p> <p>第6回 『ニュースの日本語聴解50』スピーチ発表②</p> <p>第7回 『ニュースの日本語聴解50』スピーチ発表③</p> <p>第8回 『ニュースの日本語聴解50』スピーチ発表予備日、スピーチ発表フィードバック</p> <p>第9回 『ニュースの日本語聴解50』上手な意見の伝え方①</p> <p>第10回 『ニュースの日本語聴解50』上手な意見の伝え方②</p> <p>第11回 『ニュースの日本語聴解50』ディスカッション①</p> <p>第12回 『ニュースの日本語聴解50』ディスカッション②</p> <p>第13回 実際のニュースを聞く ディスカッション③</p> <p>第14回 ディスカッションのフィードバック、聴解テスト</p> <p>第15回 前期のまとめ</p> <p>【菅担当分】</p> <p>第1回 オリエンテーション・自己紹介</p> <p>第2回 電話で伝言を頼む① ロールプレイを考える、モデル会話練習</p> <p>第3回 電話で伝言を頼む② 表現練習、まとめのロールプレイを作って発表する</p> <p>第4回 誘う・断る・保留する① ロールプレイを考える、モデル会話練習</p> <p>第5回 誘う・断る・保留する② 表現練習、まとめのロールプレイを作って発表する</p> <p>第6回 依頼する① ロールプレイを考える、モデル会話練習</p> <p>第7回 依頼する② 表現練習、まとめのロールプレイを作って発表する</p> <p>第8回 友達をなぐさめる① ロールプレイを考える、モデル会話練習</p> <p>第9回 友達をなぐさめる② 表現練習、まとめのロールプレイを作って発表する</p> <p>第10回 ほめ・ほめへの返答① ロールプレイを考える、モデル会話練習</p> <p>第11回 ほめ・ほめへの返答② 表現練習、まとめのロールプレイを作って発表する</p> <p>第12回 許可を求める① ロールプレイを考える、モデル会話練習</p> <p>第13回 許可を求める② 表現練習、まとめのロールプレイを作って発表する</p> <p>第14回 謝罪する① ロールプレイを考える、モデル会話練習</p> <p>第15回 謝罪する② 表現練習、まとめのロールプレイを作って発表する</p> <p>* 授業内容は受講生の能力や希望によって変更することがあります。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>【嶋本担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加態度 30% ・提出物 10% ・小テスト 10% ・口頭発表 20% ・期末試験 30% <p>【菅担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業参加態度 30% 発表・課題提出 30% 学期末試験 40% <p>* 授業中に携帯電話で遊ぶ等、関係のないことをしている人や、口を動かさずにただ座っている人は出席と認めません。</p>		
失格条件	<ol style="list-style-type: none"> ①出席が全授業数の3分の2に満たない場合 ②学期末試験を受けなかった場合 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>【嶋本担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほかの講義や授業を受ける際も、聞きながらメモをとる練習をしましょう。 ・習った語彙や表現の復讐は必ずしましょう。またそれを使って積極的に話しましょう。(2時間) <p>【菅担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の復讐を必ずしてください。(1時間) 会話作文の宿題を必ず提出してください。(1時間) また、授業に来るだけでは日本語は上手になりません。教室の外で積極的に日本語を話すようにしてください。(2時間) 		
課題へのフィードバック	<p>【嶋本担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テストを行い、習った語彙や表現が身についているか確認します。 ・スピーチの際には発表後、質問やコメントをします。 <p>【菅担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題提出後、コメントをつけて個別に返却します。 ・課題返却時、全体に向けてコメントします。 		
教科書	<p>【嶋本担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリントを配布します。 <p>【菅担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリントを配ります。 		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	授業中は日本語で話してください。 第1回目の授業に必ず出席してください。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CC300B09	期間	後期
授業科目名	日本語会話 B		
英訳科目名	Japanese Conversation B		
担当教員名	福田 一也、速水 はるみ		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3	◎	ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>(聴解) 聴解はただ言葉だけ、文だけを聴くのではなく大体の内容を予測しながら聞き、大切なポイントは何かを聴き取る練習をします。また、聴いたものを効果的にメモしたり要約したりして、大学の講義を聴く力を養います。なお、これに加え毎回、宿題(語彙・漢字・文法など)の提出を求めます。</p> <p>(会話) 会話は適切な場面で適切な表現が使えるように場面、状況を設定してロールプレイをしながら練習します。また会話に必要な語彙、文法、表現も正しく使えるように練習し、発音やイントネーションにも意識して話すようにします。また、会話以外にも自己紹介やスピーチ、ディスカッションの練習もします。</p>		
到達目標	<p>(聴解) ①日本語の話すスピードに慣れ、聴くのに必要な語彙や文法、表現がわかる。 ②大体の内容を把握し、大事なポイントを聴き取ることができる。 ③聴き取った内容に関して質問に答えたり、要約したりできる。</p> <p>(会話) ①必要な語彙・表現を適切に使うことができる。 ②場面に応じた言葉(友達、先生、公的)などの使い分けができる。 ③発音、イントネーション、声の大きさ、話すスピードなども意識して話せる。</p>		
授業計画	<p>(福田担当分) 第1回 オリエンテーション&自己紹介 第2回 中級の聴解① 日本の地理 第3回 中級の聴解② 日本の交通 第4回 中級の聴解③ 日本の歴史 第5回 中級の聴解④ 日本の美術館・水族館 第6回 中級の聴解⑤ 日本と社会 第7回 中上級の聴解① 日本語のメール 第8回 復習と確認Ⅰ(中級の聴解、及び漢字・文法) 第9回 中上級の聴解② 日本人と発明 第10回 中上級の聴解③ 日本のサブカルチャー 第11回 中上級の聴解④ 日本の食文化 第12回 中上級の聴解⑤ 日本の伝統芸能 第13回 上級の聴解 日本人と宗教 第14回 復習と確認Ⅱ(中上級の聴解、及び漢字・文法) 第15回 総まとめ ※人数・レベル・ニーズにより、シラバスは変更することがあります。また、期末試験のほかに小テストの実施を予定しています。</p> <p>(速水担当分) 第1回 オリエンテーション&自己紹介についての説明 第2回 効果的な自己紹介、自己アピール 第3回 ロールプレイ① 料理の作り方を教える 第4回 ロールプレイ② 先生を誘う 第5回 グループディスカッション① 合宿 第6回 ロールプレイ③ 友達を慰める・励ます 第7回 ロールプレイ④ 電話で伝言を頼む 第8回 小テスト 第9回 スピーチ① 第10回 スピーチ② 第11回 ロールプレイ⑤ 医者に病状を説明する 第12回 ロールプレイ⑥ 財布を無くして説明する 第13回 ロールプレイ⑦ 手伝いを申し出る 第14回 グループディスカッション② 交流会 第15回 まとめ ※人数・レベル・ニーズにより、シラバスは変更することがあります。また、期末試験のほかに小テストの実施を予定しています。</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度(30%)、宿題・小テスト(20%)、試験(50%)		
失格条件	出席が全授業数の3分の2に満たない場合 学期末試験を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>(予習：1時間) ①漢字・語彙・文法の宿題をしてくること。 ②ニュースや映画、ドラマなど日本語を意識して聞き、わからない言葉があれば調べてノートに書くこと。</p> <p>(復習：3時間) ①漢字・語彙・文法の小テストの勉強をすること。 ②授業で使ったスクリプトなどを見て、聴解の内容をフィードバックしておくこと。 ③ロールプレイでできなかったところなどを改めて見返し、練習しておくこと。</p>		
課題へのフィード バック	宿題や小テストは、当日、または次の授業内で解説やコメントを行います。		
教科書	不使用。毎回プリントを配布します。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	<p>①時間を守り、学校ではできるだけ日本語で話すこと。 ②配布された資料を持っていくこと。 ③授業中、携帯電話(スマートフォン)やタブレットなど通信機能付きの機器の利用は禁止する。携帯電話などの電源は必ず切ること(ただし、通信機能のない電子辞書などは使用可)。 ④小テストや期末テストでは、必ず鉛筆かシャープペンシルで記入すること。</p>		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CC300A12	期間	前期
授業科目名	日本語 A		
英訳科目名	Japanese A		
担当教員名	嶋本 圭子、菅 摂子		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3	◎	ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>この授業では、学士課程に相応する日本語能力を身につけるために、専門分野の論文、専門書などの論理的な文章を読むための基礎的な読解技術をつけるための練習を行います。また、他者との協働ができるようになるために、ペアやグループで読む活動をします。読むために必要な漢字・語彙や文法も学習し、漢字・語彙については毎回クイズを行います。【菅】</p> <p>この授業では、学術的なレポートや論文を書くための書き方を学びます。前期では、段落の構成、説明文や意見文の書き方、引用や要約の仕方などを中心に勉強します。1つの課が終わるごとに課題を出します。同時に、文章表現に必要な文法や語彙も学び、日本語の基礎力の強化も図ります。【嶋本】</p>		
到達目標	<p>【菅担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の論理的構造に着目しながら読むことができる。 読解技術（段落読み、情報検索など）を使って効率的に読むことができるようになる。 他者との協働学習ができるようになる。 <p>【嶋本 担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 論理的な文章が書けるようになる。 日本語の文章でよく使われる表現や語彙を正しく使うことができる。 		
授業計画	<p>【菅担当分】</p> <p>第1回 オリエンテーション、レベルチェック 第2回 漢字・語彙クイズ①トピック1（書き言葉の文体に慣れる） 第3回 漢字・語彙クイズ②トピック2（段落と中心文・支持文） 第4回 漢字・語彙クイズ③トピック3（アウトラインをつかむ） 第5回 漢字・語彙クイズ④トピック4（定義とはなにか） 第6回 漢字・語彙クイズ⑤トピック5（説明文を読む） 第7回 漢字・語彙クイズ⑥トピック6（比較・対照の表現を知る） 第8回 漢字・語彙クイズ⑦トピック7（原因、結果の表現を知る） 第9回 漢字・語彙クイズ⑧トピック8（三部構成を知る） 第10回 漢字・語彙クイズ⑨トピック9（大意をつかむ） 第11回 漢字・語彙クイズ⑩トピック9（接続表現に注目して読む） 第12回 漢字・語彙クイズ⑪トピック10（大意をつかむ） 第13回 漢字・語彙クイズ⑫トピック10（筆者の立場をつかむ） 第14回 漢字・語彙クイズ⑬総括 第15回 期末試験 ※履修者の人数やレベル等によって変更する場合があります。</p> <p>【嶋本 担当分】</p> <p>第1回 オリエンテーション、自分のことを書く 第2回 レポートに使われる表記、文体 第3回 「書く」ための文法や表現① 第4回 段落 第5回 「書く」ための文法や表現② 第6回 説明文① 第7回 説明文② 第8回 「書く」ための文法や表現③ 第9回 意見文① 第10回 意見文② 第11回 「書く」ための文法や表現④ 第12回 引用して書く① 第13回 引用して書く② レポート作成① 第14回 Eメールの書き方 レポート作成② 第15回 まとめと内容理解の確認 ※履修者の人数、レベル、ニーズによって、シラバスは変更する場合があります。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>【菅担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業への参加態度 30% 試験 40% 課題提出 20% クイズ 10% <p>【嶋本 担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 出席状況、授業への参加度、提出物、テストから総合的に評価する。 出席・授業参加態度 30% 提出物 30% 期末試験 40% 		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> 出席が全授業数の3分の2に満たない場合 学期末試験を受けなかった場合 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>【菅担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字・語彙クイズの準備、語彙の読み方、意味を調べておく（予習時間 2時間） 文章理解度確認のための課題（復習時間 2時間） <p>【嶋本 担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作文のアウトライン作成（2時間） 文法、文型、語彙の復習（2時間） 		
課題へのフィード バック	<p>【菅担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> クイズ採点后、返却時に全体に向けてコメントします。 課題提出後、コメントをつけて個別に返却します。 課題返却時、全体に向けてコメントします。 <p>【嶋本担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作文は返却時、個別、あるいは全体に向けてコメントします。 		
教科書	<p>【菅担当分】 不使用</p> <p>【嶋本担当分】 プリントを配布します。</p>		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CC300A12	期間	前期
授業科目名	日本語A		
英訳科目名	Japanese A		
担当教員名	嶋本 圭子、菅 摂子		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3	◎	ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>この授業では、学士課程に相応する日本語能力を身につけるために、専門分野の論文、専門書などの論理的な文章を読むための基礎的な読解技術をつけるための練習を行います。また、他者との協働ができるようになるために、ペアやグループで読む活動をします。読むために必要な漢字・語彙や文法も学習し、漢字・語彙については毎回クイズを行います。【菅】</p> <p>この授業では、学術的なレポートや論文を書くための書き方を学びます。前期では、段落の構成、説明文や意見文の書き方、引用や要約の仕方などを中心に勉強します。1つの課が終わるごとに課題を出します。同時に、文章表現に必要な文法や語彙も学び、日本語の基礎力の強化も図ります。【嶋本】</p>		
到達目標	<p>【菅担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の論理的構造に着目しながら読むことができる。 読解技術（段落読み、情報検索など）を使って効率的に読むことができるようになる。 他者との協働学習ができるようになる。 <p>【嶋本担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 論理的な文章が書けるようになる。 日本語の文章でよく使われる表現や語彙を正しく使うことができる。 		
授業計画	<p>【菅担当分】</p> <p>第1回 オリエンテーション、レベルチェック</p> <p>第2回 漢字・語彙クイズ① トピック1 (書き言葉の文体に慣れる)</p> <p>第3回 漢字・語彙クイズ② トピック2 (段落と中心文・支持文)</p> <p>第4回 漢字・語彙クイズ③ トピック3 (アウトラインをつかむ)</p> <p>第5回 漢字・語彙クイズ④ トピック4 (定義とはなにか)</p> <p>第6回 漢字・語彙クイズ⑤ トピック5 (説明文を読む)</p> <p>第7回 漢字・語彙クイズ⑥ トピック6 (比較・対照の表現を知る)</p> <p>第8回 漢字・語彙クイズ⑦ トピック7 (原因、結果の表現を知る)</p> <p>第9回 漢字・語彙クイズ⑧ トピック8 (三部構成を知る)</p> <p>第10回 漢字・語彙クイズ⑨ トピック9 (大意をつかむ)</p> <p>第11回 漢字・語彙クイズ⑩ トピック9 (接続表現に注目して読む)</p> <p>第12回 漢字・語彙クイズ⑪ トピック10 (大意をつかむ)</p> <p>第13回 漢字・語彙クイズ⑫ トピック10 (筆者の立場をつかむ)</p> <p>第14回 漢字・語彙クイズ⑬ 総括</p> <p>第15回 期末試験</p> <p>※履修者の人数やレベル等によって変更する場合があります。</p> <p>【嶋本 担当分】</p> <p>第1回 オリエンテーション、自分のことを書く</p> <p>第2回 レポートに使われる表記、文体</p> <p>第3回 「書く」ための文法や表現①</p> <p>第4回 段落</p> <p>第5回 「書く」ための文法や表現②</p> <p>第6回 説明文①</p> <p>第7回 説明文②</p> <p>第8回 「書く」ための文法や表現③</p> <p>第9回 意見文①</p> <p>第10回 意見文②</p> <p>第11回 「書く」ための文法や表現④</p> <p>第12回 引用して書く① レポート作成①</p> <p>第13回 引用して書く② レポート作成①</p> <p>第14回 エメールの書き方 レポート作成②</p> <p>第15回 まとめと内容理解の確認</p> <p>※履修者の人数、レベル、ニーズによって、シラバスは変更する場合があります。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>【菅担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業への参加態度 30% 試験 40% 課題提出 20% クイズ 10% <p>【嶋本 担当分】</p> <p>出席状況、授業への参加度、提出物、テストから総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 出席・授業参加態度 30% 提出物 30% 期末試験 40% 		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> 出席が全授業数の3分の2に満たない場合 学期末試験を受けなかった場合 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>【菅担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字・語彙クイズの準備、語彙の読み方、意味を調べておく（予習時間 2時間） 文章理解度確認のための課題（復習時間 2時間） <p>【嶋本 担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作文のアウトライン作成（2時間） 文法、文型、語彙の復習（2時間） 		
課題へのフィード バック	<p>【菅担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> クイズ採点后、返却時に全体に向けてコメントします。 課題提出後、コメントをつけて個別に返却します。 課題返却時、全体に向けてコメントします。 <p>【嶋本担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作文は返却時、個別あるいは全体に向けてコメントします。 		
教科書	<p>【菅担当分】</p> <p>不使用</p> <p>【嶋本担当分】</p> <p>プリントを配ります。</p>		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CC300A12	期間	前期
授業科目名	日本語 A		
英訳科目名	Japanese A		
担当教員名	高谷 由貴、谷川 和子		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3	◎	ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>【高谷担当分】 この授業では、学術的なレポートや論文を書くための書き方を学びます。前期では、段落の構成、説明文や意見文の書き方、引用や要約の仕方などを中心に勉強します。1つの課が終わるごとに課題を出します。同時に、文章表現に必要な文法や語彙も学び、日本語の基礎力の強化も図ります。</p> <p>【谷川担当分】 はじめに語彙を勉強します。(語彙は宿題) 毎回、様々な分野の文章の音読練習。(N2レベル) 読解は文法確認をしたり、接続表現、指示詞から予測、想像したりして読む技術をつけます。評論文、解説文、学術的文章、新聞、広告文、図、グラフなどいろいろな形式の文を読み、ディスカッション、意見をまとめて発表、要約をします。読解力、作文力とともに、教養、知識も深めてほしいと思います。</p>		
到達目標	<p>【高谷担当分】 ①論理的な文章が書ける。 ②日本語の文章でよく使われる表現や語彙を正しく使うことができる。</p> <p>【谷川担当分】 ①接続詞や指示詞を理解する。 ②いろいろな形式の文章が読める。 ③内容を予測したり、まとめたり、発表したりできる。 ④読むことで教養、知識を深めます。</p>		
授業計画	<p>【高谷担当分】 第1回 オリエンテーション 第2回 レポートに使われる表記、文体 第3回 「書く」ための文法や表現① 第4回 段落 第5回 「書く」ための文法や表現② 第6回 説明文① 第7回 説明文② 第8回 「書く」ための文法や表現③ 第9回 意見を書く 第10回 比較して書く 第11回 「書く」ための文法や表現④ 第12回 引用して書く① 第13回 引用して書く② レポート作成① 第14回 メールの書き方 レポート作成② 第15回 到達度の確認・レポートのフィードバック ※履修者の人数、レベル、ニーズによって、シラバスは変更する場合があります。</p> <p>【谷川担当分】 第1回 オリエンテーション 第2回 指示詞を含んだ読解(上級、中上級レベル) 第3回 接続詞から予測して読む(上級、中上級レベル) 第4回 読解から意見を言う 第5回 読解から書く 第6回 情報検索 第7回 絵、図、グラフを読み取る 第8回 読解から要約 第9回 学術文を読む① 心理学 第10回 学術文を読む② 社会問題 第11回 新聞読解① ディスカッション 第12回 新聞読解② 感想文 第13回 読みながら聴いてまとめる 資料を読む 第14回 長文読解(上級・中上級レベル) 第15回 到達度の確認 ※授業内容は履修者の人数、レベルなどによって、変更することがあります。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>【高谷担当分】 出席、授業への積極的な参加態度 40% 提出物、授業準備(宿題など) 30% 期末試験 30%</p> <p>【谷川担当分】 授業への参加態度 40% 提出物、授業準備(宿題など) 30% 試験 30%</p>		
失格条件	<p>①出席が全授業の3分の2に満たない場合 ②学期末試験を受けなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>【高谷担当分】 特に予習の必要はありませんが、作文の課題は、それまでにやった書き方や表現を指定して出すことが多いので、復習はきちんとしてください。(1時間) レポートとしての体裁が守れていない場合、再提出を課すことがあります。</p> <p>【谷川担当分】 語彙の宿題は、必ず家で調べてきてください。(1時間) 間違ったり、初めて知った語彙を記録するノートを作っておくと便利です。</p>		
課題へのフィード バック	<p>【高谷担当分】 提出された課題に対して、添削の上フィードバックします。</p> <p>【谷川担当分】 試験終了後 全体に向けて解説</p>		
教科書	不使用 プリントを配ります。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	<p>【高谷担当分】 毎回辞書(電子辞書・アプリも可)を持ってきましょう。</p> <p>【谷川担当分】 たくさん語彙を覚え、たくさん読むことが大切です。読解は読む力だけでなく、知識が増え、いろいろなことに役に立ちます。</p>		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CC300A12	期間	前期
授業科目名	日本語 A		
英訳科目名	Japanese A		
担当教員名	速水 はるみ、福田 一也		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3	◎	ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>様々なテーマでレポートや作文、論文を書く練習をし、基礎力を強化します。 文法、語彙や表現方法はもちろん段落の構成や意見文の書き方などを練習して説得力のある文章が書けるようにします。自分の視点で考え、それを伝えるためのスキルを身につけていけるように練習します。【作文小論文・速水】</p> <p>総合的な読解力を養うために少し長めの文章を読んでもいきます。 様々なテーマの文章を読む中で内容をしっかり把握し、読むために必要な正しい文法知識、文章表現、語彙などの力も合わせて伸ばしていこうと思います。テーマについては社会、経済、文化、自然環境など多くの分野に触れ、日本語力とともに知識、考える力を養うことも図ります。また、音読を多く取り入れて、正確な読みができるように練習します。【読解・福田】</p>		
到達目標	<p>既定の文字数を書くことができる。 文章表現のルールをきちんと理解し、語彙、助詞、接続詞、文法、文字、などを正しく使うことができる。 課題に沿って自分の意見や主張を論理的に書くことができる。【作文小論文・速水】</p> <p>早く正確に読むことができる。 筆者が一番言いたいことや、文章の中で一番大事なポイントを理解することができる。 文章中に出てくる文法や語彙を理解し、使えるようになる。【読解・福田】</p>		
授業計画	<p>(速水担当分・作文小論文) 第1回 オリエンテーション&文章表現のルール①(原稿用紙の使い方、助詞等) 書く①「春休みの出来事について」 第2回 文章表現のルール②(呼称・文末表現) 先週の作文のフィードバック 第3回 書くためのスキル①状況の説明し、意見を述べる 第4回 書く② 意見文【一つの意見】 第5回 書くためのスキル②段落を作る 先週の作文のフィードバック 第6回 書く③ 意見文【二つの意見】 第7回 文章表現のルール③(書き言葉らしさ) 先週の作文のフィードバック 第8回 小テスト 第9回 書くためのスキル③テーマに沿った意見文 小テストのフィードバック 第10回 書く④ テーマに沿った意見文 第11回 書くためのスキル④レポートの基礎知識 先週の作文のフィードバック 第12回 書くためのスキル⑤順序だててレポートを書く&小論文の書き方 第13回 書く⑤小論文 第14回 書くためのスキル⑥&書く⑥要約 先週の作文のフィードバック 第15回 まとめ ※作文のテーマは履修者のレベルやニーズによって変更する場合があります。</p> <p>(福田担当分・読解) 第1回 オリエンテーション 読解のポイント&「インターネットの日本語」 第2回 中級読解①日本の昔話「大力の僧①」 第3回 中級読解②日本の昔話「大力の僧②」 第4回 中級読解③論説文「察しの文化」 第5回 中級読解④物語「静香ちゃんの結婚前夜」 第6回 新聞や雑誌を読む①「相撲」 第7回 新聞や雑誌を読む②「敬語」 第8回 復習と確認 I & 日本語の歌詞を読む「ひまわりの約束」 第9回 中上級の読解① 論説文「タコ〜利口者の伊賀忍者〜」 第10回 中上級の読解② 「マンガの神様：手塚治虫①」 第11回 中上級の読解③ 「マンガの神様：手塚治虫②」 第12回 日本の物語「半日村」 第13回 中国の物語「愚公移山」 第14回 復習と確認 II & 読解「アニメの名言：ワンピース」 第15回 総まとめ ※読解の内容は履修者のレベルやニーズによって変更する場合があります。</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 (30%) 宿題・小テスト (20%) 期末テスト (50%)		
失格条件	①出席が全授業数の3分の2に満たない場合 ②期末テストを受けなかった場合		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	<p>予習について ①文字・語彙・文法の宿題をすること。 ②毎日、新聞やニュースを見て(携帯でもOK) わからない言葉は調べておくこと。 ③興味がある分野の本を図書館で借りたりして、日本語の文章をたくさん読むこと。 ④生活の中で自分が感じたり思ったりしたことをメモや日記に書いておくこと。 180分/週</p> <p>復習について ①毎回宿題に出した文字・語彙・文法の小テストを行うのでしっかり覚えること。 ②授業で読んだ読解や書いた作文をもう一度見直して自分なりにフィードバックすること。 90分/週</p>		
課題へのフィードバック	宿題や小テストは当日、または次の授業で解説やコメントを行います。		
教科書	不使用。毎回プリントを配ります。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	<p>学校では積極的に日本語で話すこと。 授業時間に遅れないこと。 配布物はきちんとファイルに整理して、必要なものは忘れずに持ってくること。 授業中、携帯電話(スマートフォン)やタブレットなどの通信機能付きの機器の利用は禁止する。携帯電話などの電源は必ず切ること。(ただし、通信機能のない電子辞書などは使用可) 小テスト、期末テストでは必ず鉛筆かシャープペンシルを使用すること。(ボールペンは使わない。)</p>		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CC300B10	期間	後期
授業科目名	日本語 B		
英訳科目名	Japanese B		
担当教員名	嶋本 圭子、菅 摂子		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3	◎	ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>この授業では、日本語Aに引き続き、論理的な文章を読むために必要な文法知識、構造に関する知識を学びながら、文章を読んでいくための技術を身につけます。また、他者との協働がよりできるようになるために、ペアやグループで読む活動を行います。読むために必要な漢字・語彙や文法を学習し、漢字・語彙については毎回クイズを行います。【菅】</p> <p>日本語Aに引き続き、よりアカデミックな書き方を学ぶとともに、与えられた課題について、論理的な文章を書く練習を中心にします。文法や語彙の補強も引き続き行います。また授業内にレポートを作成し、それを発表します。【嶋本】</p>		
到達目標	<p>菅担当分</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の論理的構造に着目しながら読むことができる。 徐々に長く、堅い内容の文章を読むことに慣れ、論文の構成や論の展開の仕方などを意識しながら読むことができる。 他者との協働学習ができるようになる。 <p>【嶋本 担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 論理的な文章が書けるようになる。 日本語の文章でよく使われる表現や語彙を正しく使うことができる。 		
授業計画	<p>【菅担当分】</p> <p>第1回 オリエンテーション、トピック1導入 第2回 漢字・語彙クイズ① トピック1 (話題とメインアイデア) 第3回 漢字・語彙クイズ② トピック1 (内容をまとめる) 第4回 漢字・語彙クイズ③ トピック2 (話題とメインアイデア) 第5回 漢字・語彙クイズ④ トピック2 (内容をまとめる) 第6回 漢字・語彙クイズ⑤ トピック3 (話題とメインアイデア) 第7回 漢字・語彙クイズ⑥ トピック3 (内容をまとめる) 第8回 漢字・語彙クイズ⑦ トピック4 (話題とメインアイデア) 第9回 漢字・語彙クイズ⑧ トピック4 (内容をまとめる) 第10回 漢字・語彙クイズ⑨ トピック5 (話題とメインアイデア) 第11回 漢字・語彙クイズ⑩ トピック5 (内容をまとめる) 第12回 漢字・語彙クイズ⑪ トピック6 (話題とメインアイデア) 第13回 漢字・語彙クイズ⑫ トピック6 (内容をまとめる) 第14回 漢字・語彙クイズ⑬ 総括 第15回 期末試験</p> <p>※履修者の人数やレベル等によって変更する場合があります。</p> <p>【嶋本 担当分】</p> <p>第1回 書き言葉らしさ 第2回 要約① 第3回 要約② 第4回 「書く」ための文法や表現①、レポート作成① 第5回 課題と目的の提示 第6回 「書く」ための文法や表現②、レポート作成② 第7回 定義と分類 第8回 「書く」ための文法や表現③、レポート作成③ 第9回 図表の提示 第10回 「書く」ための文法や表現④、レポート作成④ 第11回 引用の復習 第12回 同意と反論 第13回 レポート発表① 第14回 レポート発表② 発表のフィードバック 第15回 まとめと内容理解の確認</p> <p>※履修者の人数、レベル、ニーズによって、シラバスは変更する場合があります。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>【菅担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業への参加態度 30% 試験 40% 課題提出 20% クイズ 10% <p>【嶋本 担当分】</p> <p>出席状況、授業への参加度、提出物、テストから総合的に評価する。 出席・授業参加態度 30% 提出物 30% 期末試験 40%</p>		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> 出席が全授業数の3分の2に満たない場合 学期末試験を受けなかった場合 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>【菅担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字・語彙クイズの準備、語彙の読み方、意味を調べておく (予習時間 2時間) 文章理解度確認のための課題 (復習時間 2時間) <p>【嶋本 担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作文・レポートのアウトライン作成 (2時間) 文法、文型、語彙の復習 (2時間) 		
課題へのフィードバック	<p>【菅担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> クイズ採点后、返却時に全体に向けてコメントします。 課題提出後、コメントをつけて個別に返却します。 課題返却時、全体に向けてコメントします。 <p>【嶋本担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作文は返却時、個別あるいは全体に向けてコメントします。 		
教科書	<p>【菅担当分】</p> <p>不使用</p> <p>【嶋本担当分】</p> <p>プリントを配ります。</p>		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CC300B10	期間	後期
授業科目名	日本語 B		
英訳科目名	Japanese B		
担当教員名	嶋本 圭子、菅 摂子		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3	◎	ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>この授業では、日本語Aに引き続き、論理的な文章を読むために必要な文法知識、構造に関する知識を学びながら、文章を読んでもいくための技術を身につけます。また、他者との協働がよりできるようになるために、ペアやグループで読む活動を行います。読むために必要な漢字・語彙や文法を学習し、漢字・語彙については毎回クイズを行います。【菅】</p> <p>日本語Aに引き続き、よりアカデミックな書き方を学ぶとともに、与えられた課題について、論理的な文章を書く練習を中心にします。文法や語彙の補強も引き続き行います。また授業内にレポートを作成し、それを発表します。【嶋本】</p>		
到達目標	<p>【菅担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の論理的構造に着目しながら読むことができる。 徐々に長く、堅い内容の文章を読むことに慣れ、論文の構成や論の展開の仕方などを意識しながら読むことができる。 他者との協働学習ができるようになる。 <p>【嶋本 担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 論理的な文章が書けるようになる。 日本語の文章でよく使われる表現や語彙を正しく使うことができる。 		
授業計画	<p>【菅担当分】</p> <p>第1回 オリエンテーション、トピック1導入 第2回 漢字・語彙クイズ① トピック1 (話題とメインアイデア) 第3回 漢字・語彙クイズ② トピック1 (内容をまとめる) 第4回 漢字・語彙クイズ③ トピック2 (話題とメインアイデア) 第5回 漢字・語彙クイズ④ トピック2 (内容をまとめる) 第6回 漢字・語彙クイズ⑤ トピック3 (話題とメインアイデア) 第7回 漢字・語彙クイズ⑥ トピック3 (内容をまとめる) 第8回 漢字・語彙クイズ⑦ トピック4 (話題とメインアイデア) 第9回 漢字・語彙クイズ⑧ トピック4 (内容をまとめる) 第10回 漢字・語彙クイズ⑨ トピック5 (話題とメインアイデア) 第11回 漢字・語彙クイズ⑩ トピック5 (内容をまとめる) 第12回 漢字・語彙クイズ⑪ トピック6 (話題とメインアイデア) 第13回 漢字・語彙クイズ⑫ トピック6 (内容をまとめる) 第14回 漢字・語彙クイズ⑬ 総括 第15回 期末試験</p> <p>※履修者の人数やレベル等によって変更する場合があります。</p> <p>【嶋本 担当分】</p> <p>第1回 書き言葉らしさ 第2回 要約① 第3回 要約② 第4回 「書く」ための文法や表現①、レポート作成① 第5回 課題と目的の提示 第6回 「書く」ための文法や表現②、レポート作成② 第7回 定義と分類 第8回 「書く」ための文法や表現③、レポート作成③ 第9回 図表の提示 第10回 「書く」ための文法や表現④、レポート作成④ 第11回 引用の復習 第12回 同意と反論 第13回 レポート発表① 第14回 レポート発表② 発表のフィードバック 第15回 まとめと内容理解の確認</p> <p>※履修者の人数、レベル、ニーズによって、シラバスは変更する場合があります。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>【菅担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業への参加態度 30% 試験 40% 課題提出 20% クイズ 10% <p>【嶋本 担当分】</p> <p>出席状況、授業への参加度、提出物、テストから総合的に評価する。 出席・授業参加態度 30% 提出物 30% 期末試験 40%</p>		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> 出席が全授業数の3分の2に満たない場合 学期末試験を受けなかった場合 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>【菅担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字・語彙クイズの準備、語彙の読み方、意味を調べておく (予習時間 2時間) 文章理解度確認のための課題 (復習時間 2時間) <p>【嶋本 担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作文、レポートのアウトライン作成 (2時間) 文法、文型、語彙の復習 (2時間) 		
課題へのフィードバック	<p>【菅担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> クイズ採点后、返却時に全体に向けてコメントします。 課題提出後、コメントをつけて個別に返却します。 課題返却時、全体に向けてコメントします。 <p>【嶋本担当分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作文は返却時、個別あるいは全体に向けてコメントします。 		
教科書	<p>菅担当分 不使用</p> <p>【嶋本担当分】 プリントを配布します。</p>		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CC300B10	期間	後期
授業科目名	日本語 B		
英訳科目名	Japanese B		
担当教員名	谷川 和子、高谷 由貴		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3	◎	ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>【高谷担当分】 前期に引き続き、よりアカデミックな書き方を学ぶとともに、与えられた課題について、論理的な文章を書く練習を中心にします。文法や語彙の補強も引き続き行います。また授業内にレポートを作成し、それを発表します</p> <p>【谷川担当分】 はじめに語彙を勉強します。(語彙は宿題) 毎回、様々な分野の文章の音読練習。(N2レベル) 読解は、文法確認をしたり、接続表現、指示詞から予測、想像したりして読む技術をつけます。 いろいろな形式の文を読み、ディスカッション、意見をまとめて発表、要約をします。読解力、作文力とともに、教養、知識も深めてほしいと思います。</p>		
到達目標	<p>【高谷担当分】 ①論理的な文章が書けるようになる。 ②日本語の文章でよく使われる表現や語彙を正しく使うことができる。</p> <p>【谷川担当分】 ①接続詞や指示詞を理解する。 ②いろいろな形式の文章が読める。 ③内容を予測したり、まとめたり、発表したりできる。 ④読むことで教養、知識を深める。</p>		
授業計画	<p>【高谷担当分】 第1回 オリエンテーション・書き言葉らしさ 第2回 要約① 第3回 要約② 第4回 「書く」ための文法や表現①/レポート作成① 第5回 課題と目的の提示 第6回 「書く」ための文法や表現②/レポート作成② 第7回 定義と分類 第8回 「書く」ための文法や表現③/レポート作成③ 第9回 資料の利用 第10回 「書く」ための文法や表現④/レポート作成④ 第11回 引用の復習 第12回 同意と反論 第13回 レポート発表① 第14回 レポート発表②、発表のフィードバック 第15回 到達度の確認 ※授業内容は履修生の人数、レベルなどによって、変更することがあります。</p> <p>【谷川担当分】 第1回 オリエンテーション 第2回 指示詞を含んだ読解(中上級・中級レベル) 第3回 接続詞から予測して読む(中上級・中級レベル) 第4回 読解から意見を言う 第5回 読解から書く 第6回 情報検索 第7回 絵、図、グラフを読み取る 第8回 読解から要約 第9回 学術文を読む① 心理学 第10回 学術文を読む② 異文化理解 第11回 新聞読解① 短文 第12回 新聞読解② 長文 第13回 読みながら聴いてまとめる 第14回 長文読解(中上級・中級レベル) 第15回 到達度の確認 ※授業内容は履修生の人数、レベルなどによって、変更することがあります。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>【高谷担当分】 出席、授業への積極的な参加度 40% 提出物、授業準備(宿題など) 30% 期末試験 30%</p> <p>【谷川担当分】 授業への参加態度 40% 提出物、授業準備(宿題など) 30% 試験 30%</p>		
失格条件	<p>①出席が全授業数の3分の2に満たない場合 ②学期末試験を受けなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>【高谷担当分】 特に予習の必要はありませんが、作文の課題は、それまでにやった書き方や表現を指定して出すことが多いので、復習はきちんとしてください(1時間)。レポートとしての体裁が守れていない場合、再提出を課すことがあります。</p> <p>【谷川担当分】 語彙の宿題は、必ず家で調べてきてください。(1時間) 間違ったり、初めて知った語彙を記録するノートを作っておくと便利です。</p>		
課題へのフィード バック	<p>【高谷担当分】 提出された課題に対して、添削の上フィードバックします。</p> <p>【谷川担当分】 試験終了後 全体に向けて解説</p>		
教科書	不使用 プリントを配ります。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	<p>【高谷担当分】 毎回辞書(電子辞書・アプリも可)を持ってきましょう。</p> <p>【谷川担当分】 たくさん語彙を覚え、たくさん読むことが大切です。読解は読む力だけでなく、知識が増え、いろいろなことに役に立ちます。</p>		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CC300B10	期間	後期
授業科目名	日本語 B		
英訳科目名	Japanese B		
担当教員名	速水 はるみ、福田 一也		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3	◎	ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>N2レベル相当の読解の文章を読んでいます。文章を読むのに必要な語彙力、文法力を身につけて正確に内容把握できるようにします。文章を読むことで幅広い知識、考える力を養い、その内容について要約する力を身につけていけるように練習します。また、音読、精読、速読など様々な「読む力」を意識して練習していきます。【読解 速水】</p> <p>基本的な文章の書き方を学びます。まず原稿用紙の書き方や段落の構成、表現方法などを練習します。そして、文字・文体・表記・文法・語彙などに注意して、ミスのない正確な文章が書けるようにします。どうすれば人に伝える文章が書けるかを考えて「書く力」の向上を図ります。また、社会、経済、文化、環境など様々な分野のテーマで自分の意見が書けるように練習します。【作文 福田】</p>		
到達目標	<p>スラスラ音読できる。 文章を読むのに必要な語彙、文法が理解できる。 早く正確に内容を把握できる。【読解 速水】</p> <p>400字ほどの文章が書ける。 文字・文体・語彙・文法・表現などを正しく使うことができる。 段落構成がしっかりでき、自分の言いたいことが読む人に伝わるように書くことができる。 どんなテーマに対しても自分の意見を書くことができる。【作文 福田】</p>		
授業計画	<p>(速水担当分 読解)</p> <p>第1回 オリエンテーション & 日本の世界遺産 第2回 日本の文化について (アニメ・オタク・ファン) 第3回 和食・食文化について 第4回 日本古来の物語 (怪談など) 第5回 日本人特有の性格について 第6回 新聞・雑誌を読む 第7回 小説・エッセイを読む 第8回 大震災について 第9回 ストレスについて 第10回 小学校の英語教育について 第11回 言語について 第12回 結婚、育児について 第13回 漢字について 第14回 コミュニケーションについて 第15回 まとめ</p> <p>徐々に読む文章を長くしていき、長文が読めるようにしていきます。 ※読解の内容は履修者のレベルやニーズによって変更する場合があります。</p> <p>(福田担当 作文)</p> <p>第1回 オリエンテーション & 作文の基礎用語 第2回 原稿用紙の使い方、作文「自己紹介」(200字) 第3回 作文「自己紹介(200字)」のフィードバック 第4回 文体と書き言葉①「公欠届の書き方」 第5回 文体と書き言葉②「メールの書き方」 第6回 文体と書き言葉③作文「わたしの専門」 第7回 作文「わたしの専門」のフィードバック & 活動「ポスター制作」 第8回 復習と確認 I 第9回 論理的文章の作成①～理由を書く～作文「住むなら大都市？田舎？」など 第10回 先週の作文のフィードバック 第11回 論理的文章の作成②～具体例を書く～作文「幸せはお金で買える？」など 第12回 先週の作文のフィードバック 第13回 論理的文章の作成③重要文型「確かに、～」「実際に～」など 第14回 復習と確認 II 第15回 総まとめ</p> <p>※作文のテーマは履修者のレベルやニーズによって変更する場合があります。</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 (30%) 宿題・小テスト (20%) 期末テスト (50%)		
失格条件	①出席が全授業数の3分の2に満たない場合 ②期末テストを受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習について</p> <p>①文字・語彙の宿題をすること。 ②毎日、新聞やニュースを見て (携帯でもOK) わからない言葉は調べておくこと。 ③興味がある分野の本を図書館で借りたりして、日本語の文章をたくさん読むこと。 ④生活の中で自分が感じたり思ったりしたことをメモや日記に書いておくこと。 180分/週</p> <p>復習について</p> <p>①毎回宿題に出した文字・語彙・文法の小テストを行うのでしっかり覚えること。 ②授業で読んだ読解や書いた作文をもう一度見直して自分なりにフィードバックすること。 90分/週</p>		
課題へのフィードバック	宿題や小テストは当日、または次の授業で解説、コメントを行います。		
教科書	不使用。毎回プリントを配ります。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では積極的に日本語で話すこと。 ・授業時間に遅れないこと。 ・授業中、携帯電話 (スマートフォン) やタブレットなどの通信機能付き機器の利用は禁止する。携帯電話などの電源は必ず切ること。(ただし、通信機能のない電子辞書などは使用可) ・配布物はファイルに整理し、必要なものは必ず持ってくること。 ・小テストや期末テストでは必ず鉛筆かシャープペンシルを使用すること。(ボールペンを使わない。) 		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CC300B11	期間	前期
授業科目名	日本語C		
英訳科目名	Japanese C		
担当教員名	福田 一也		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>大学、大学院では、日本語で授業を理解するのはもちろんのこと、日本語でレポートや論文などの課題を提出することも求められます。日本語の助詞や活用、文法などについて一通り学習してきたこととは思いますが、その知識を踏まえて正しい日本語を書くことはやはり難しいことです。さらに、書き言葉は話し言葉とは違うので、正しい文章を書くには、書き言葉としての適切な表現が求められます。そこで本授業では、日本語学習者が文章を書く際に陥りやすい文法・文型の間違いに着目し、正しい文章を書くための基礎的な知識と技術を身につけます。</p>		
到達目標	<p>日本語の文章表現のルール（文法・文型）を理解すると同時に、その知識を実際の作文において運用し、正確な文章を書くことができるようになることを目標とします。具体的には、以下の項目を達成目標とします。</p> <p>①文章を作成する際、日本語学習者が間違えやすい表現（文法・文型）についての基礎知識を身につけることができる。</p> <p>②誤った文章表現に気づき、それを正しい表現に変えることができる。</p> <p>③自ら短文を作成する際、①②の知識に基づき、正しい文法・文型を用いて表現することができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス 日本語の文章表現（文法・文型）について 第2回 助詞の使い方① 「で」と「を」、「を」と「に」、「を」と「が」 第3回 助詞の使い方② 複合助詞、「は」と「が」 第4回 言葉の形① 形の選択（動詞の活用など） 第5回 言葉の形② 必要・不必要な言葉（形容詞の活用、および名詞の普通形） 第6回 言葉の形③ 時間表現（「た形」と「る形」） 第7回 復習と確認Ⅰ（助詞の使い方、言葉の形） 第8回 自動詞と他動詞 第9回 受身表現 第10回 呼応表現① 副詞との呼応（「どんなに～ても／でも」など） 第11回 呼応表現② 接続詞との呼応（「なぜなら、～からだ」など） 第12回 呼応表現③ 主語との呼応（「私は～と思います」など） 第13回 呼応表現④ 疑問詞との呼応（「どこに～か」「だれが～か」など） 第14回 復習と確認Ⅱ（自動詞と他動詞、受身表現、呼応表現） 第15回 総まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（30%）、宿題・小テスト（20%）、試験（50%）		
失格条件	出席が全授業数の3分の2に満たない場合 学期末試験を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	各回の学習項目について、これまで勉強した内容を整理するなどして予習しておく。（予習1時間） 講義で配布されたプリントの復習と宿題。（復習3時間）		
課題へのフィード バック	宿題や小テストは、当日、または次の授業内で解説やコメントを行います。		
教科書	不使用。毎回プリントを配布します。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	<p>①時間を守り、学校ではできるだけ日本語で話すこと。</p> <p>②配布された資料を持ってくること。</p> <p>③授業中、携帯電話（スマートホン）やタブレットなど通信機能付きの機器の利用は禁止する。携帯電話などの電源は必ず切ること（ただし、通信機能のない電子辞書などは使用可）。</p> <p>④小テストや期末テストでは、必ず鉛筆かシャープペンシルで記入すること。</p>		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CC300B12	期間	後期
授業科目名	日本語D		
英訳科目名	Japanese D		
担当教員名	福田 一也		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>大学、大学院では、日本語で授業を理解するのはもちろんのこと、日本語でレポートや論文などの課題を提出することも求められます。日本語の助詞や活用、文法などについて一通り学習してきたこととは思いますが、その知識を踏まえて正しい日本語を書くことはやはり難しいことです。さらに、書き言葉は話し言葉とは違うので、正しい文章を書くには、書き言葉としての適切な表現が求められます。そこで本授業では、日本語学習者が文章を書く際に陥りやすい「文字・表記」の間違いに着目し、正しい文章を書くための基礎的な知識と技術を身につけます。</p>		
到達目標	<p>日本語の文章表現のルール（「文字・表記」）を理解すると同時に、その知識を実際の作文において運用し、正確な文章を書くことができるようになることを目標とします。具体的には、以下の項目を達成目標とします。</p> <p>①文章を作成する際、日本語学習者が間違えやすい表現（「文字・表記」）についての基礎知識を身につけることができる。</p> <p>②誤った文章表現に気づき、それを正しい表現に変えることができる。</p> <p>③自ら短文を作成する際、①②の知識に基づき、正しい「文字・表記」を用いて表現することができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス 日本語の文章表現（「文字・表記」）について 第2回 漢字とひらがな① 漢字で書く言葉（「飲む」、「書く」など） 第3回 漢字とひらがな② ひらがなで書く言葉（「しかし」、「また」など） 第4回 漢字の選択（「人口」と「入口」など） 第5回 漢字の誤変換（「直す」と「治す」など） 第6回 送り仮名（「働」→「働いて」など） 第7回 復習と確認Ⅰ（漢字、ひらがな、送り仮名） 第8回 カタカナ①（擬音語・擬態語） 第9回 カタカナ②（外来語） 第10回 読点の打ち方 第11回 書き言葉の表現① 副詞（「ぜんぜん」と「まったく」など） 第12回 書き言葉の表現② 接続詞・接続助詞（「でも」と「しかし」、「けど」と「が」など） 第13回 書き言葉の表現③ 文末表現（「なきゃ」と「なければ」など） 第14回 復習と確認Ⅱ（カタカナ、読点、書き言葉の表現） 第15回 総まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（30%）、宿題・小テスト（20%）、試験（50%）		
失格条件	出席が全授業数の3分の2に満たない場合 学期末試験を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	各回の学習項目について、これまで勉強した内容を整理するなどして予習しておく。（予習1時間） 講義で配布されたプリントの復習と宿題。（復習3時間）		
課題へのフィード バック	宿題や小テストは、当日、または次の授業内で解説やコメントを行います。		
教科書	不使用。毎回プリントを配布します。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	<p>①時間を守り、学校ではできるだけ日本語で話すこと。</p> <p>②配布された資料を持ってくること。</p> <p>③授業中、携帯電話（スマートホン）やタブレットなど通信機能付きの機器の利用は禁止する。携帯電話などの電源は必ず切ること（ただし、通信機能のない電子辞書などは使用可）。</p> <p>④小テストや期末テストでは、必ず鉛筆かシャープペンシルで記入すること。</p>		
備考			
科目生への開講	なし		